B. 課題整理#001　実例：「人生 100 年時代」「人生 100 歳時代」

【ポイント】

・「人生 100 年時代」「人生 100 歳時代」は、2017 年には流行語ともなったが、言葉のイメージが先行した印象がある。そこから数年間は、様々な主体が、いろいろなテーマで論じていて[1]、一体何がポイントか、何が大事なのか、一般の人にとっては大変わかりにくい状態が続いた。

↓↓↓↓↓↓

・巷間、議論されている様々なことを鳥瞰し、共通要素を取り出してみると、大きく言えば、①健康、②経済、③生きがい、④地域の４分野に整理することができる。また、そして、Ⓐ個人・Ⓑ社会制度という側面からは、これらを大きく２つに分けることもできる。

・このように整理すれば、企業・団体等では、そのうちどの分野が最も関連が深いのかを見極めることができ、この課題へのアプローチの仕方も明確となる（注）。

（注）行政主体である神奈川県庁では、主に「時間の充実」に焦点を当てながら、住民の啓発事業等を展開していった。

[1] 2016 年 10 月『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』（リンダ・グラットン等著）出版
2017 年 9 月「人生 100 年時代構想会議」設置
2018 年 6 月「人づくり革命 基本構想」発表　等。

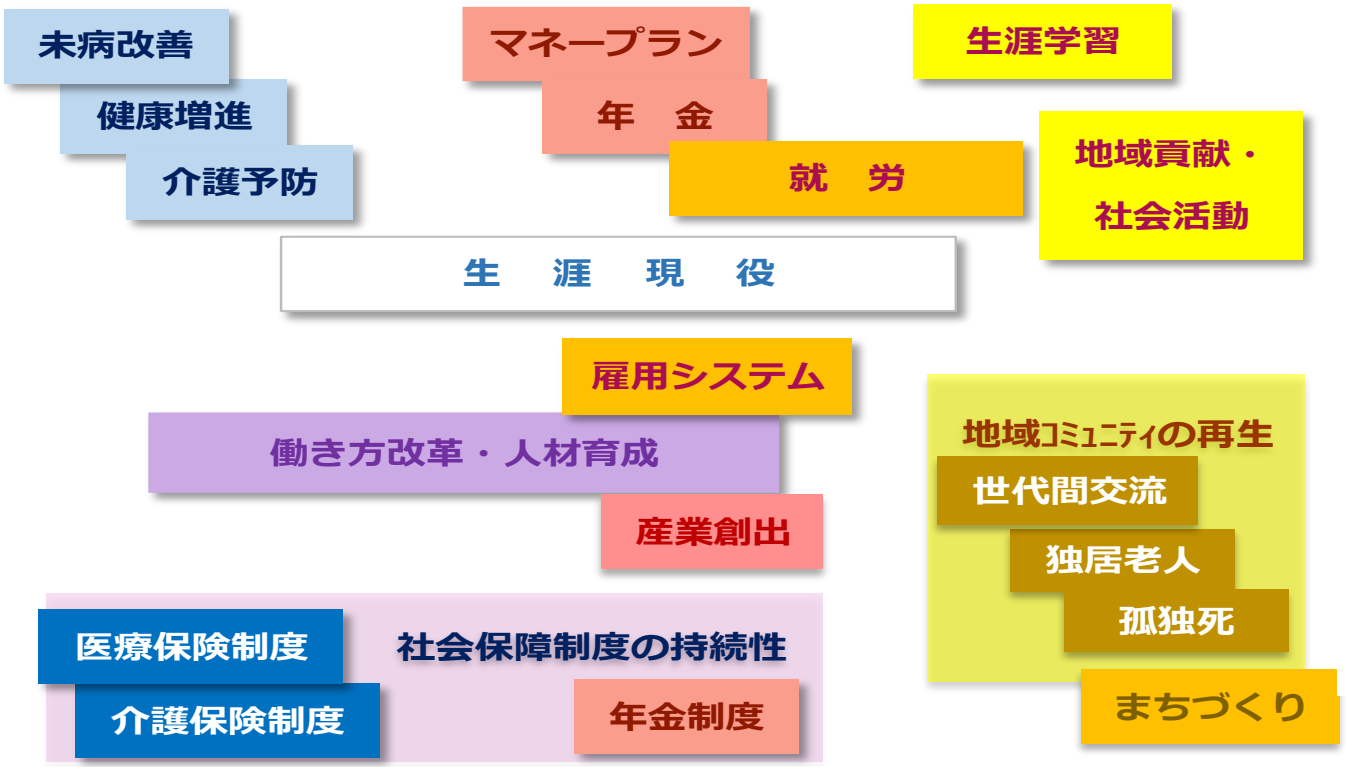
【参考】「人生 100 年時代」に関する視座、課題の整理

１．『人生 100 歳時代』『人生 100 年時代』という言葉は、ここ数年の間に、近年いろいろな分野で耳にするようになった。

【例. ホームページやニュースの見出し等でみられたもの】

- 医療：「『人生 100 年時代』は政府の大ウソ」
- 介護：人生 100 年時代の「終の住処」どこに――サ高住選別の実態
- 年金：『人生 100 歳時代年金』（生涯受け取れる介護・年金保障）
- 結婚：人生 100 年時代の結婚に関する意識と実態
- 金融：『人生 100 年時代フォーラム』
- 仕事：人生 100 歳時代の転職
- 教育：『人生 100 歳時代の教育』
- 学び：人生 100 年「自分の学び」を見つけよう
- まちづくり：「人生 100 年時代」のまちづくり

２．こうした「人生 100 年時代」に関連した課題や話題をみてみると、高齢者の健康、社会保障制度から、人材育成や地域コミュニティの再生、さらにはまちづくりに至るまで、多岐に亘るものとなっている。

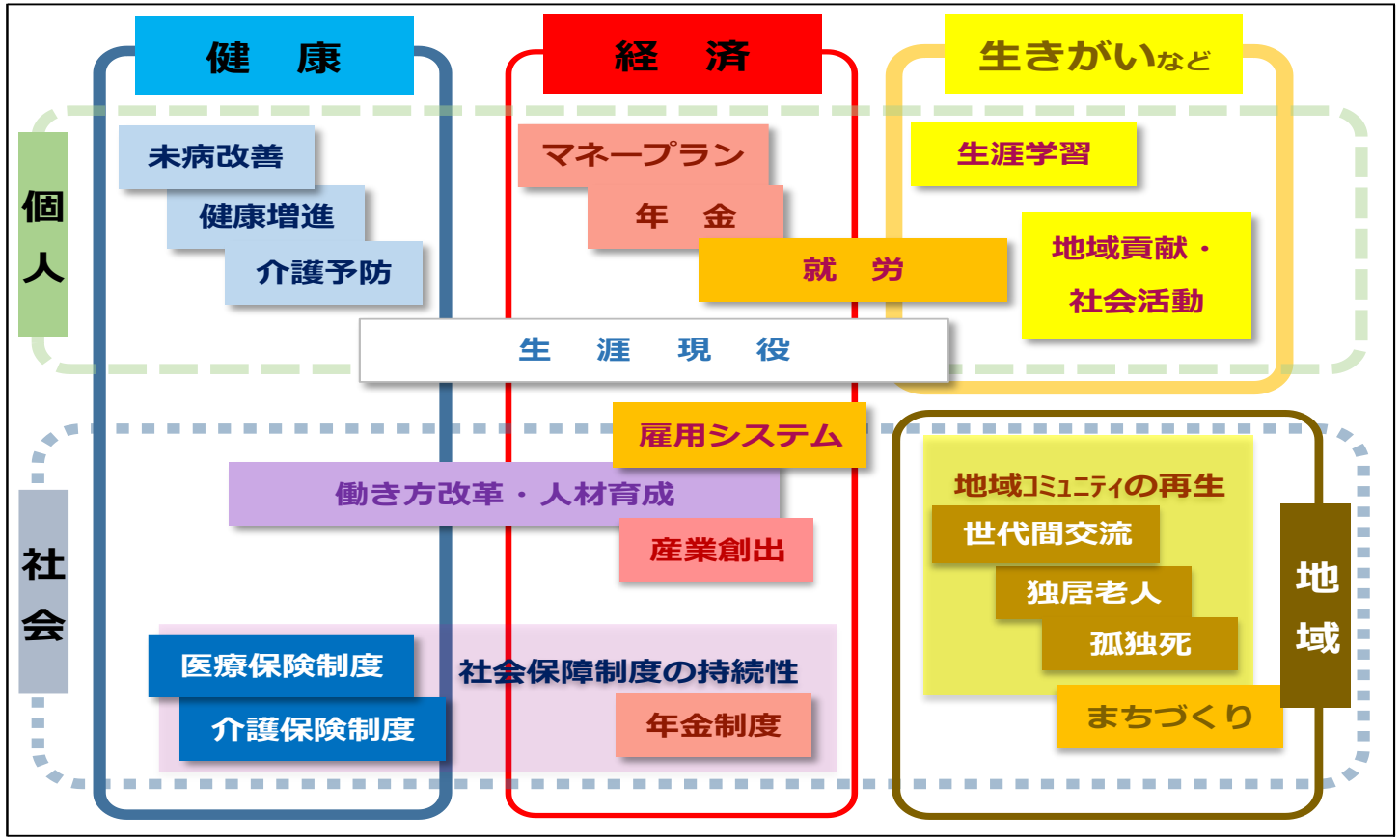


３．「人生 100 年時代」は、語感・イメージこそ多少異なるが、「超高齢社会」を言い換えたものだといえる。呼び方が変わっても、社会として取組むべき重要課題が本質的に変わったわけではない。

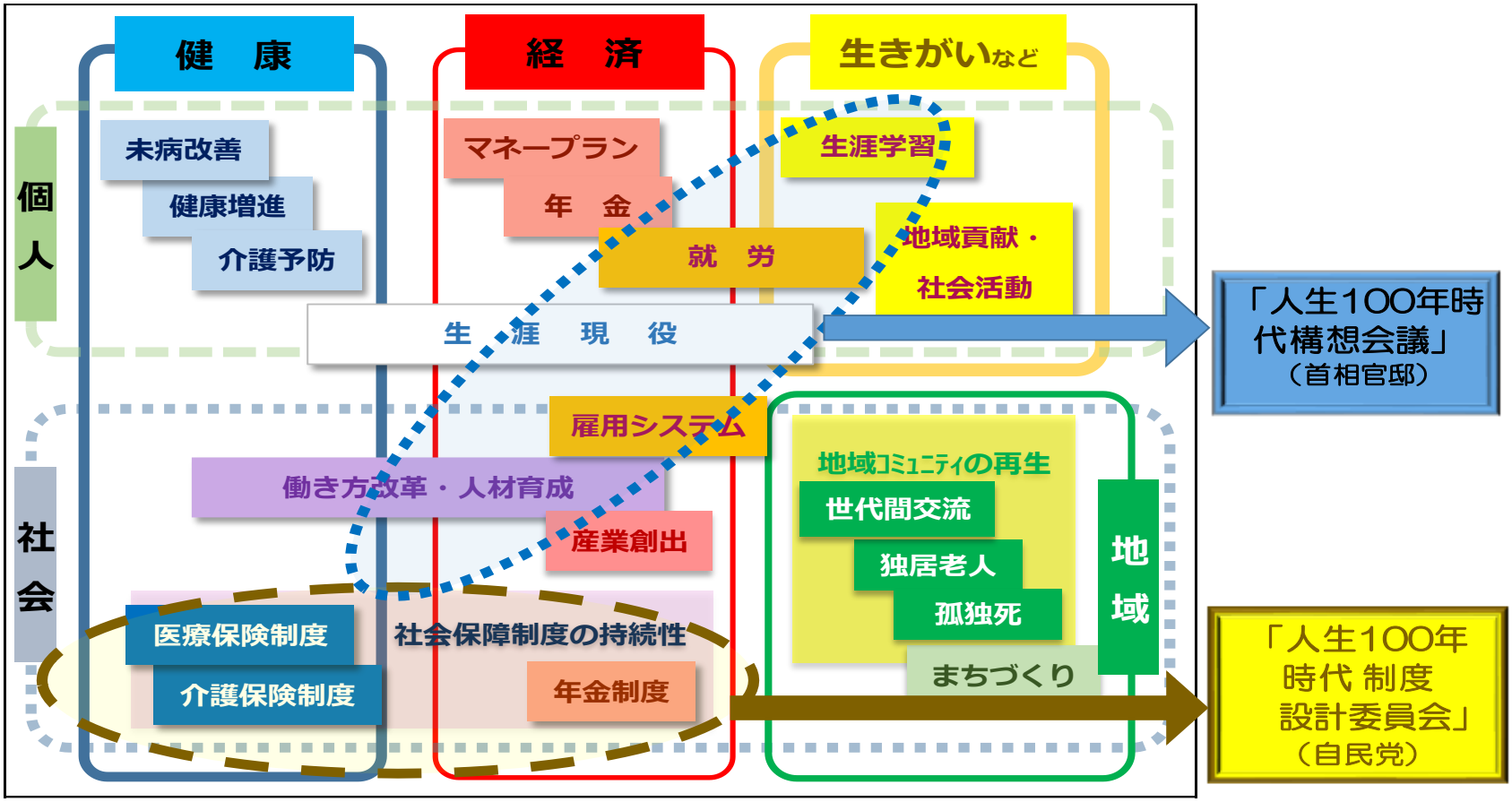
『超高齢社会』	≒	『人生 100 年時代』
健康・医療、社会保障に関心		生き方・働き方に力点
・社会をやや静的に捉える ・高齢者の問題が中心 ・将来について厳しいイメージ ・20＋40＋20 年の人生設計を前提 ・社会制度の見直しは意識		・自分の人生展開を動的に捉える ・若い世代も対象としている ・若干ポジティブなイメージ ・多様な生き方・働き方の実現を目指す ・社会制度の抜本的改革を意識

用語は違っても、取り組むべき社会課題は、何ら変わっていない

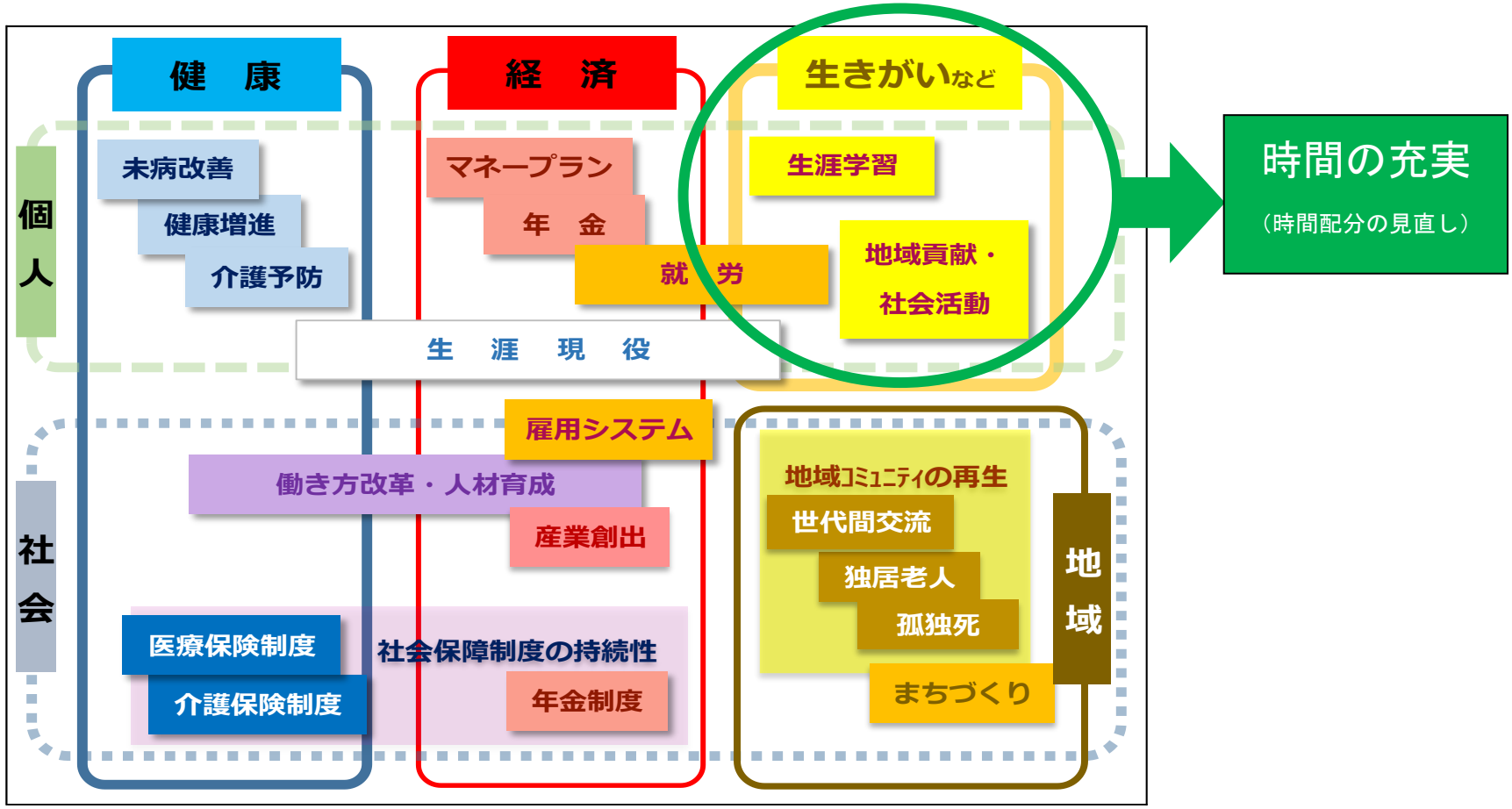
４．議論の全体像を下図のように鳥瞰してみると、『人生 100 年時代』が対象としている課題は、①健康、②経済、③生きがい、④地域の４分野に分けることが出来る。そして、Ⓐ個人・Ⓑ社会制度という側面からは、これらを大きく２つに分けることもできる。



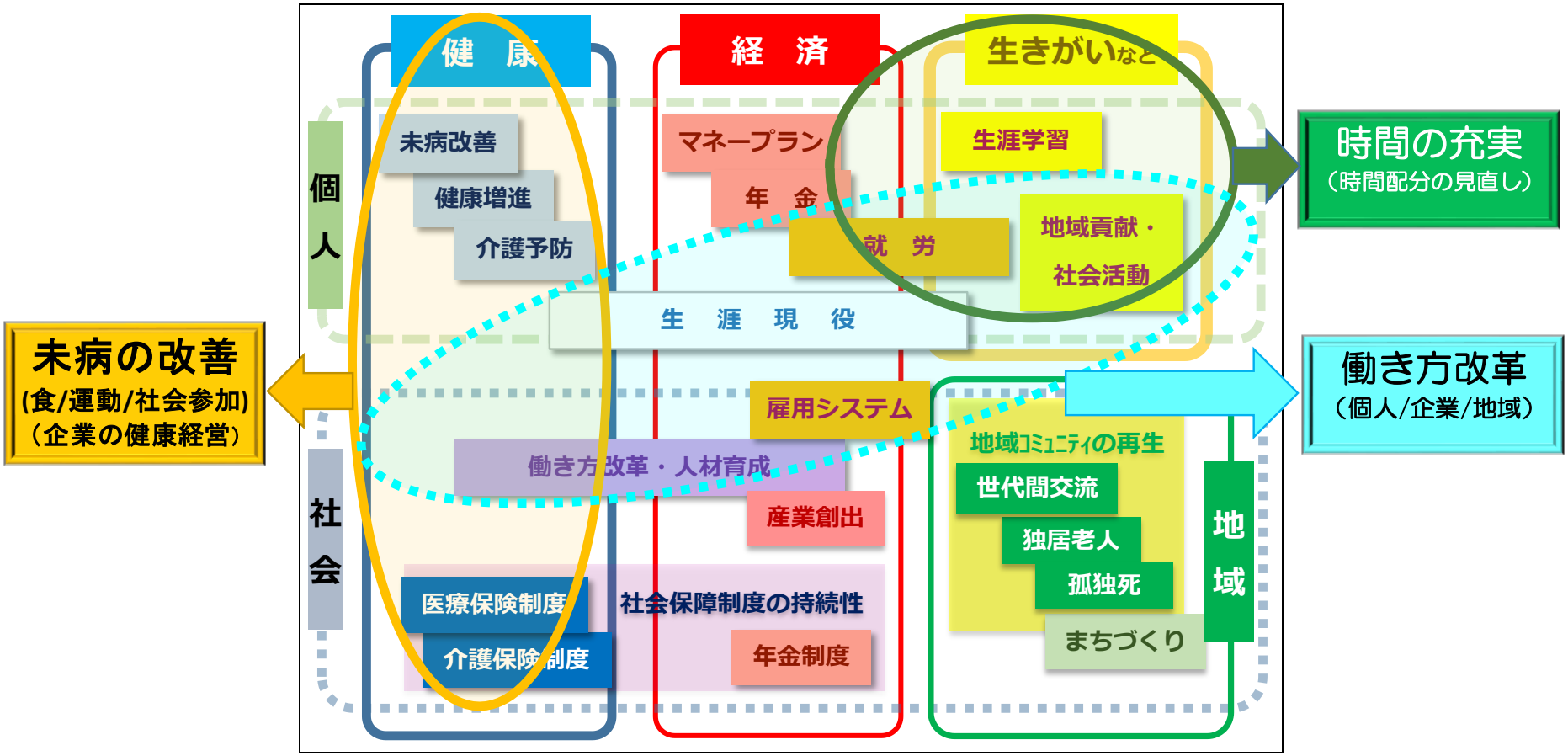
５．このように、「人生 100 年時代」は、課題が多岐に亘るので、議論する際には、どこかに絞る必要はある。鳥観図に沿ってみてみると、同じ「人生 100 年時代」と掲げながらも、政府は主に人材育成等を議論し、与党は主に社会保障制度を議論していたことがわかる（2018-19 年頃）。



６．一方、広域自治体の一つである神奈川県庁では、「個人」の「生きがい」などを中心とした「時間の充実」という側面に焦点をあてて、住民への啓発活動等を推進してきている。



7．ちなみに「働き方改革」や「未病の改善」といったように、ほかの政策課題についても、「人生 100 年時代」が議論の対象としている全体像の中で整理して理解することができる。



以　上